

ど天気や気温の変化が激しい季節である。春一番は、立春から春分までの間に広い範囲で初めて吹く南よりの暖かい強い風であるが、海難、なだれ、フェーンによる大火、突風による被害など大きな災害を引き起こすことがある。福岡県をはじめ、九州地方北部の春一番の平年値は二月二十三日である。また、二月から三月にかけては、太平洋側で大雪となることがあり、春の大雪と呼ばれている。

また、春は移動性高気圧に覆われる日が多く、一年中で最も空気の乾燥する季節でもある。春がすすみ、五月中旬になると夏日も現れて、日中は汗ばみ、初夏を感じるようになってくる。

二 梅 雨

梅雨は、東アジアだけにみられる特有の現象である。暦のうえの入梅は、六月十一日ごろだが、気象上の梅雨入りや梅雨明けは、地域や年によって異なる。

梅雨季の天気図の特徴は、北のオホーツク海高気圧から吹き出す冷たい気流と、南の太平洋高気圧から送り込まれる暖かく湿った気流との間に、東西に長く伸びた梅雨前線ができることである。この前線に沿う雲の帯は、ベンガル湾から中国、日本を通り、千島列島まで延びている。中国ではこれをマイユと呼んでいる。梅雨末期に、梅雨前線に向かって南の海上から高温多湿の気流（湿舌）が流れ込み、集中豪雨や大雨を降らせ、大きな災害を引き起こす。

日本各地の梅雨入り、梅雨明けの平年値（第1表）をみると、五月中旬に沖縄や奄美諸島をスタートした

第1表 各地の梅雨入り・明けと梅雨期間総降水量の平年値 (昭和21~昭和55年) (福岡管区気象台 1990)

地方	予報中枢	梅雨入り	梅雨明け	梅雨期間	梅雨期間降水量(ミリメートル)
沖縄	沖縄	5月11日	6月22日	42日	那覇 525.6
奄美	鹿児島	5月11日	6月27日	47	名瀬 719.7
九州南部	鹿児島	6月1日	7月15日	44	鹿児島 755.0
					宮崎 668.6
九州北部	福岡	6月6日	7月18日	42	福岡 506.8
					下関 546.3
					佐賀 619.9
					長崎 611.2
					熊本 745.3
					大分 472.4
四国	高松	6月5日	7月16日	41	高松 294.0
近畿	大阪	6月8日	7月17日	39	大阪 377.1
中国	広島	6月7日	7月18日	41	広島 492.7
東海	名古屋	6月9日	7月17日	38	名古屋 354.8
関東甲信	東京	6月9日	7月18日	39	東京 255.4
北陸	新潟	6月9日	7月20日	41	新潟 273.0
東西南部	仙台	6月11日	7月21日	40	仙台 246.2
東北北部	仙台	6月15日	7月26日	41	青森 162.2

梅雨前線は、二〇日ほどかけて北上し、六月一日ごろ九州南部、六月六日ごろ九州北部に達する。梅雨明けは沖縄で六月二十二日ごろ、奄美で六月二十七日ごろである。太平洋高気圧の勢力が大きくなるにつれ、次々に梅雨明けするが、九州北部では七月十八日ごろで、それまでのおよそ四〇日間が雨季としての梅雨季である。

この期間の降水量は年間の極大を示し、福岡で五〇・八_{ミリ}メートル、飯塚で五八・一_{ミリ}メートルである。豊津ではこの期間の統計はないが、六月の降水量の平均が三二・八_{ミリ}メートル、七月が三二・〇_{ミリ}メートルであり、六月と七月の降水量合計六四・八_{ミリ}メートルのかなりの割合が梅雨季に降るものと思われる。六月と七月の降水量は全年の一八・四_{ミリ}メートルの三五_{パーセント}に相当する。